



グローバルPBL体験談

実施年度	2021年度
プログラム連番	116
実施形態	オンライン
担当教員	材料工学科 芹澤 愛先生
実施期間	2021年10月15日～11月12日
実施協定校	チュラーロンコーン大学(タイ)

参加学生体験談（要旨）

材料工学科

3年生

今年はオンライン開催で参加費用がかからないと聞いて、興味本位で参加しました。プログラムは大きく分けて2つのパートに分かれており、前半は主に交流を目的としたレクリエーションを行い、後半はプレゼンを2回行いました。

前半は英語を話すことに慣れておらず、ほとんど無言で終わることもありましたが、タイの学生が、かなり積極的に話しかけてくれたので、徐々に会話に参加できるようになりました。後半はプレゼンの準備で忙しくなりましたが、PowerPoint以外のスライド作成ツールについて知ることができたり、チームで行うプレゼンの進め方をタイの学生から学ぶことができました。また、最新のテーマについて調べる際は英語のサイトを利用することも重要だと学びました。

僕たちもタイの学生もネイティブではないので、あまり文法、表現、発音の正しさにこだわらず、思ったことを話してみることが大事だと思います。どうしても通じなければ紙やスマホに書いたものを見せれば問題ないです。また、自分が本当好きなことや興味があることについて話してみると打ち解けやすいと思います。

スピーキングは経験が特に重要だと思うので時間が許す限り、こういったプログラムに参加すると良いと思います。タイの学生も簡単な表現を使うことが多く、発音も人によってまちまちなので、中学レベルの文法さえ分かればTOEICの点数は気にしなくて良いと思います。

材料工学科

3年生

本プログラムは、確実に自分の力になったと思います。このプログラムで重要なことは、英語が合ってるか間違ってるかは考えずに伝えようと努力することと、コミュニケーションを楽しむことだと感じました。タイの生徒の方が英語力はずっと上ですが、互いに第一言語ではないので文法が合っていないなくても、読み取ってくれることが多かったです。一度で伝わらなくても、言葉を変えて何度も伝えること大切だと感じました。

また、自分の言ったことが伝わってるかわからないときは、"私の言ってることわかった？"などと確認すると反応してくれるので、発言に自信がもてました。言い回しなども毎日参加していくうちに使えるフレーズなどがわかってきました。コミュニケーションを楽しむという点では会話の量が増えると、プレゼンの準備などもしやすくなるので重要だと思いました。

プレゼンテーションをするというタスクだけに縛られてしまうと楽しめないなので、趣味の話などをしながらすると楽しかったです。本プログラムに参加しているタイの生徒は、日本に興味のある人や、日本に来たことがある人が多いので、会話も盛り上がりました。難しいことは質問できなくても楽しい会話ができました。

参加学生体験談（要旨）

材料工学科

4年生

私の夢は研究者になることなので、英語のコミュニケーション能力が必要です！
いいトレーニングになると思います。恥ずかしがらずに自分の考えを大胆に表現し、他人の意見に耳を傾けることができるイベントです。その過程でできた仲間は、これからの人生にとってかけがえのないものです。

短い期間では、専門知識を飛躍的に深めることはできませんが、英語の表現力を高めたり、議論の中での創造力や想像力を高めたりすることはできます。本学とチュラーロンコーン大学の先生はとても優しく、親切でした！授業の内容もとても面白かったです。

材料工学科

3年生

このプログラムは外国人とコミュニケーションをとりたい人が最も向いていると思います。英語を学びたい人であれば、タイの人々は、基本的にフレンドリーなので、色々な話題を振ってきてくれることもあります。日本文化に理解のある人だと、こちらが振った話題を広げてくれることもありますし、すごい人は日本語を教えてくれと言ってくることもあります。

全文丸々聞き取れなくても、キーワードを聞き取れるならば、チュラーロンコーン大学の学生も、諦めずに伝えようとしてくれます。チャットに文章を送ってもらい、google翻訳にかけられるのがオンラインならではだと思えます。

ボディランゲージが伝わりにくく、距離を感じてしまうのがオンラインの欠点ですが、文字起こし、google翻訳を使えるため、専門分野について話し合うことを恐れる必要が無いことも、対面より参加のハードルを下げているので、外国に行く余裕がないという方はg PBLへの参加を検討してもよいのではないのでしょうか。

応用化学科

2年生

日本語が完全に通じない環境に身を投じたのは、初めての経験で、きちんと話すことができるかなどの不安がありましたが、チュラーロンコーン大学の学生の多くが明るく、とてもフレンドリーで、たわいのない話などもできましたし、おそらくめっちゃくちゃな英語をしゃべってしまっていたと思いますが、何とか意思疎通することができ、一定の手ごたえを感じることもできました。

参加学生体験談（要旨）

材料工学科

3年生

本プログラムでは、タイの学生とコミュニケーションをとり、与えられた課題を解決していくというものでした。いきなり課題に取り組むのは難しいので、最初のうちは、簡単な英語のゲームから始めました。そうしていくうちに、英語でのコミュニケーションに慣れ、他の学生とも打ち解けていきました。今では彼らと友達になりました。

【参加を迷っている皆様へ】

私はTOEICの点数が400点程度だったので参加する事に不安がありました。“全然喋れなかったら、全然聞き取れなかったらどうしよう”など、不安はたくさんありました。もちろん、プログラムの始めは、英語が全然分かりませんでした。このままでは大変だと思い、英語の勉強を今まで以上に行いました。途中からその成果が出て、簡単な英文なら話せるようになりました。話せるようになってからは、かなり楽しくなり、相手の言っている事が分かる、自分の言っている事が伝わるというのは嬉しかったです。

このようなプログラムに参加するのは、とても勇気が必要だと思います。実際、私もギリギリまで悩みました。そのとき、私の友達も参加してみたいと言っていたので、一緒に参加しようという決心ができました。私的には大正解でした。

無理をする必要はないですが、興味があったらやってみませんか？
「やらない後悔よりやる後悔」だと私は思います。

応用科学科

3年生

私は応用化学科を専攻しており、材料工学に全く詳しくなかったため、最初はとても不安でした。ですが、同じチームの学生が丁寧に説明してくれて、自分も積極的に案を出したり、発言することができました。チュラーロンコーン大学の学生は、とてもフレンドリーで気軽に話せました。また、チュラーロンコーン大学の学生はとても優秀で、一緒に活動できて光栄でした。

材料工学科

3年生

チュラーロンコーン大学の学生と仲良くなれて、いろんなことについて話し合いました。世界的にはやっている音楽、ゲームなど、英語で自分が話したいことをきっちりまとめ、相手に伝えることができ嬉しかったです。また相手の話をよく聞くことで、肝心の単語を聞き取れる能力を、この短期間の中で徐々に身につけていたと感じたので、よかったですと思います。これから英語を使う場面が多いと思いますし、練習ができて満足しました。

参加学生体験談（要旨）

材料工学科

3年生

タイの学生は、日本の学生以上に相手の国の文化について詳しく、興味を持ってくれていると感じました。日本の学生とのコミュニケーションだけでは、絶対に得ることのできない認識の違いを、感じる事ができると思います。

材料工学科

3年生

英語で専門的なこと話さなければいけないというのは、かなり難しかったです。また、発表をグループ単位で行うので、どのようにスライドを作り、発表するかをグループ全員で決める際も難航しましたが、このプログラムで学んだことはとても良い経験になったと思います。